

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 洛和福祉会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	平成 24 年 4 月に開設した事業所であり、建物も新しくご利用者もスタッフも明るい事業所です。グループとしては 2 番目の小規模多機能居宅介護事業所であり、事業所間の情報交換・連携も行えています。レクリエーションに力を入れており皆さん楽しんで下さっています。ご利用者やご家族の意向を大切に、柔軟な対応を心掛け支援させて頂いております。
事業所名	洛和小規模多機能サ ービス 山科西野	管理者	大西 ひとみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用開始になってからの新たな気づきを共有しサービスに繋げていく。	記録に残し、ミーティング時などにも職員間で情報共有が出来ていた。	日々の「振り返り」「再確認」の形で、情報共有されているように感じました。同じ小規模で同じ様な悩みをもっておられると感じました。	新規利用者の詳しい情報収集や本人の思いを担当職員が理解し、共有していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	イーゼルを活用し地域の方にも情報発信を出来る様にする。	ただイーゼルを出すだけではなく、内容の更新し気にかけてもらえる取り組みが必要だったと思う。	コロナ禍で中に入ることが出来ませんが、玄関の飾り付けや表の植栽などが、目に留まり気持ちいいです。	行事担当が玄関の飾り付けも行い、外からも事業所の雰囲気を感じる様に取り組んでいく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域交流会会議には管理者のみの参加になっており、他の職員の参加、情報共有を行う。	会議、行事が全て中止になり地域との関わりを持つ事ができなかったが、民生の方や包括の方が事業所に来て下さり、関わりは持てた。	地域行事が全て中止になり、職員さんとの「顔の見える」関係が先細って、無くなる事を心配しています。オレンジトライアングルの活動再開も難しいと思うので、顔を出す機会を増やします。	オレンジトライアングルの取り組みを今後どのように取り組んで行くのかを話し合い、関わりを戻していく準備を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	横のつながりが出来る様、他の職員も参加出来るように調整する。	コロナ禍で地域との取り組みがなく、横のつながりを構築できなかった。	西野学区民生児童委員会では毎月定例会議を行っています。年に何度か事業所の職員さん出席で出来ればと思います。	会議や集まりがあった際、勤務調整を行い職員も参加出来るようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員の顔を知ってもらえるよう、写真と名前を入り口に作成し地域の方にも知ってもらえるよう環境作りを行う。	職員紹介のボードの作成をし地域の方にも知ってもらえるよう環境作りを行った。	高齢化が進む中、事業所、包括、民生の三者連帯が今以上に必要とされています。「顔つなぎ」が出来ればと思います。	管理者だけではなく、他の職員の紹介やあいさつからでも、顔つなぎが始めていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	地域の方にも参加してもらえ よう、イーゼルに記載するなどの 情報発信を行う。	消防訓練も必要最低限の人数で 行った為に地域の方の参加がな かった。	事業所の出入りが可能になっ たら、避難訓練の参加・見学が出来 たらと思います。	地域の方も参加出来るよう になった際には、情報発信し参加し てもらう。
--------------------	--	--	---	---